



第 132 号

発行所
宇都宮市立姿川第一小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
橋本 和英
印刷所
株式会社宮本印刷

主張 「形無しの教育にならないために」

栃木県小学校長会副会長 阿久津 恵子



最近読んだ雑誌のコラムに、五十七歳の若さで亡くなった中村勘三郎さんのことが書いてありました。

勘三郎さんといえば『歌舞伎を若い人にも見てもらいたい』『世界に向けて発信したい』との熱い思いをもち、様々なことに挑戦した人です。古典的な歌舞伎に新しい演出を取り入れたり、海外で芝居小屋を再現

し興行を行ったりと、斬新な試みを次々と進めていきました。

しかし、こうしたことに對して、批判的な声も少なくなくなりました。そんな勘三郎さんが、生前大切にしていた言葉に『型のある人が型を破るから、型破り』であつて、型のない人が新しいことをしても、それは『形無し』というのがあります。その言葉のとおり勘三郎さんは誰よりも基本を大切にしていたといひます。役に徹するため、資料を調べ上げ、演じ方に工夫を凝らしたそうです。自ら厳しい稽古に励み、

決して妥協は許さなかつたというの有名な話です。『きちんとした基本があるからこそできるということ』どこか教育にもつながることではないでしょうか。

今後、学校には教育改革の大きな波が次々と押し寄せてくることでしょう。学校ではそれらをしっかりと受けとめられるよう、粛々と準備を進めなければなりません。

そんな中で校長としては、自校の教員が指導者としての基本を身に付けているかどうかを確認することも大切な仕事です。学級経営はうまくいっているだろうか。授業は…。児童指導はどうだろうか…。

型のない教員が闇雲に新しいことばかりを追いかけ『形無し』の教育にならないために。

(日光市立下原小学校)

主張 「校長会に対する思い」

栃木県小学校長会副会長 荒川 順光



昨年度の三月の下旬に、先輩の校長先生が小学校長会の副会長を引き受けておいたから、頑張つて務めるようにしてくださいとのあ

りがたい言葉を頂きました。責任の重さから自分で務まるかなあという不安はありましたが、覚悟を決めてやり始めました。四月下旬の第一回理事・評議員研修会から活動が始まりました。五月下旬の全連小総会に初めて参加しました。熱気に包まれた会場に驚きました。この後、何回も研修会に参加させて頂きましたが、特に心に残っているのが七月中旬に行われた中央研究大会でした。この大会の講演を担当してくださった坂田先生のお話は、以前も聞いていましたが、さらに、心に残るものでした。謝辞を

担当させて頂きました。あまり上手にできませんでしたが、感謝の気持ちは伝わったと考えます。

校長会が連携を図っている関係の団体との懇親会にも可能な限り参加させて頂きました。いろいろな人とコミュニケーションを図ることの大切さを学びました。

副会長を務めることによつて県小学校長会の組織のすばらしさがさらによく理解できました。宇都宮市の校長先生方が何回も集まつて研修会の準備等をしてくださっていることがよく分かりました。教員が力を合わせて協働する意識をもつて児童と向き合える教育環境を整えることが小学校長会の大きな役割であると痛感しました。

教育再生会議の提言を受けて教育改革がものすごいスピードで進められていきますが、大事なものを見失うことなく取り組んでいきましよう。

(栃木市立大平南小学校)

栃木県小学校長会中央研究大会

大会主題 「新しい知を活かし

豊かな心をもった子どもの育成を

目指す学校経営の推進」

研修部長 田中政男

七月十四日、栃木県総合

教育センターで開催された。

一 開会

○開会のことは

阿久津恵子 副会長

○会長あいさつ

橋本和英 会長

○来賓あいさつ

古澤利通 県教育長

二 講話

◇演題

「児童虐待の予防と対策について」

◇講師

栃木県保健福祉部こども政策課 児童家庭支援・虐待対策担当

主幹 益子 照雄 様

(副主幹 佐山 恵子 様)

◇講話の概略

1 栃木県における児童虐待の現状

①児童虐待相談件数

昨年度 1559件

②児童虐待者の状況

・虐待者 実母(61%)

・実父(26%)

・被虐待児 就学前の児童(42%) 小学生(39%)

③児童虐待の種類

・「心理的虐待(34%)」

・「ネグレクト(33%)」

④児童虐待とは

2 児童虐待とは

①心理的虐待 ひどい暴言や無視、DVを見せるなど子どもに著しい心理的外傷を与えるような言動

②ネグレクト 子どもの身の発達を妨げるような著しい減食、長時間の放置、その他、保護者として監護を怠ること

③身体的虐待 子どもの身体に傷や痣などが生じるような暴行を加えること

④性的虐待 子どもにわいせつな行為をすること、子どもにわいせつな行為をさせること

3 虐待を早期に見出すために(子どもたちのサインの一例)

①身体の特徴

- ・普通の事故ではありえない火傷がある。
- ・病気ではないのに低身長、低体重である。

②行動の特徴

- ・身体に触れられるのを過度に嫌がる。
- ・給食などを食べるように食べない。

③対人関係の特徴

- ・うそが多く、過度に大人の顔色をうかがう。
- ・初対面の人でもベタベタと甘える。

④その他

- ・家に帰りがたがらない。
- ・自傷行為を繰り返す、過度に注目を得ようとする。

4 虐待を早期に見出すために(保護者・家庭のサインの一例)

①子どもへの態度

- ・ちよつとしたことで怒り、乱暴である。
- ・子どもの言動に無関心、冷たい態度をとる。

②学校や社会との関係

- ・「子どもがうそをつく、言うことをきかない」等、養育についての悩みや不安を訴える。

③両親の関係

- ・育児親が異なったり、対立したりしている。
- ・子夫婦間のけんかが絶えなかつたり、夫婦間の暴力があつたりする。

④その他

- ・厳しくしつけることが大切だという過度な信念をもっている。
- ・経済的に不安定である。

★「不自然さ」が最も重要なサインである。

5 児童虐待の子どもへの影響(虐待の影響が様々な形となって現れる)

①身体面(主なもの)

- ・低身長、発達の遅れ、身体的障害、脳機能障害等

②精神面(主なもの)

- ・愛着障害、低い自己評価、人間関係の不安定さ、攻撃的受動的態度、感情コントロールの低下、PTSD等

③行動面(主なもの)

- ・多動、性化行動、摂食障害、人格障害、犯罪行為等

★さらに、次世代への連鎖

6 学校での対応(学校への期待)・児童虐待防止法第5条では

①学校(児童の福祉に業務上関係のある団体)

- ・児童や保護者に児童虐待防止のための教育・啓発

②教職員(児童虐待を発見しやすい立場にある者)

- ・児童虐待の早期発見、予防・防止に努めること
- ・児童虐待を受けた児童の保護・自立の支援に協力

★複眼的な視点から子どもを見ることのできる組織である。

★子どもの言動の変化等を通じて虐待の発見に至る感度が高い。

7 虐待通告まで(「子ども・保護者家庭」のサイン)からの「気づき」

○ポイント

- ・子どもの安全確認↓場合により医療機関へ
- ・子どもに聞く↓開かれた質問と閉じられた質問
- ・保護者に聞く↓保護者も困難を抱えている
- ・記録を残す↓危機感を伝える
- ・情報収集と情報共有を図る↓一人で無理をしない

・関係機関との連携↓情報は勝手に集まらない

8 通告から支援へ(速やかに通告しなければならぬ)

○『学校・教育委員会』から『市町の児童福祉課』▽『要保護児童対策地域協議会』▽『児童相談所』へ速やかに通告

○連携・関係機関

◇民生・児童委員◇主任児童委員◇保健所◇医療機関◇警察署◇司法機関◇児童福祉施設 等

9 「重症度等と対応内容」

「支援の内容」(略)

10 児童相談所の対応状況(虐待につながるリスク)

①児童虐待につながる児童の状況
・問題行動、病弱、発達の遅れ、望まれない出生等

②児童虐待につながる家庭等の状況
・育児能力の問題、家庭不和、一人親家庭、親族や近隣からの孤立、劣悪な住環境、被虐待経験 等

11 今後の虐待対応の取組
・児童虐待の世代間連鎖の防止(虐待を受けて育った子が親になった時に自分の子どもに虐待を起こ

さないために)
○連鎖防止のために
・小学生などには、「要支援児童へ直接支援」や「施設入所児童の養育の充実」を図る。
・中高生には、「就職困難な施設退所児童への支援」を行う。

12 「社会的支援状況」「要支援児童放課後応援事業」

「退所児童等就労支援事業」(略)

三 講演

○講師紹介

大豆生田 将 副会長

◇演題

「教育裁判の動向と校長としてのリーダーシップ」

・体罰、いじめ事案を中心として

◇講師

日本女子大学 教職教育開発センター

教授 坂田 仰 先生

◇講演内容

1 はじめに(厳しさを増す学校経営)

2 学校観の変化(法的センスを備えた管理職)

3 体罰に対する認識(全体的に体罰に関する認識の甘さが目立つ)

4 いじめ問題と向き合う

「刑事法規」に触れるようないじめは、警察と連携して対処

5 ために代えて
講演概要については、平成二十七年三月発行の『小学校長研修記録五十四』に掲載予定

〰〰〰 析の葉 〰〰〰

「学力向上アドバイザーの活用を」

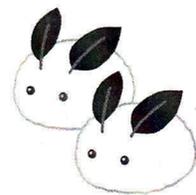
栃木県教育委員会

○謝辞

荒川 順光 副会長

○閉会のことは

阿久津恵子 副会長



向上改善プランを作成する上での助言などを行います。三回目、四回目は九月から一月にかけて、実践の様子を参観するなどして、学校の取組の検証や、さらなる改善への支援を行います。五回目は二月から三月の間で、一年間の取組の振り返りなどを行います。

学力向上アドバイザーは、調査結果分析資料や改善の手立ての例示資料を学校ごとに作成したり、学校の求めに応じて教職員や保護者対象の学力向上に関する講話を行ったりするなど、学校のニーズに柔軟に対応するよう努めています。派遣指定校からは、学力向上アドバイザーからの助言や提供された資料などにより、

学校全体として学力向上に取り組もうという教職員の意識の高揚と取組の充実が図られたという声をいただいています。

校長先生方におかれましては、子どもたちの学力を向上させるため、学力向上アドバイザーを効果的に活用し、自校の学力向上の取組をさらに充実させていただければ幸いです。

県教育委員会では、とちぎの子どもが夢や希望を描き、それを実現できる力を培えるよう、様々な施策を実施しております。その施策の一つである「とちぎっ子学力アッププロジェクト」において、今年度から学力向上アドバイザー派遣事業を実施しています。

本事業は、とちぎっ子学習状況調査の効果的な活用や、学習指導における検証改善サイクルの構築・運用が促進されるよう学校を支援すること、児童生徒一人一人の学力向上を図ることを目的としております。

学力向上アドバイザーは三年間で県内全公立小中学

校を訪問し、次の業務を行います。中でも一校につき五年五回程度学校を訪問する①に重点を置いています。

①学校の検証改善サイクル構築・運用に関する支援

②優れた成果を挙げた学校の取組事例の収集及び周知(実践事例集作成)

③市町教育委員会及び教育事務所との情報交換
五回訪問する学校の場合、一回目の訪問は五月から六月の間で、本事業の趣旨、内容の説明などを行います。二回目は、七月から八月の間、とちぎっ子学習状況調査結果の分析と、今後の取組への支援として、学力

豊かな心をもち、輝いて生きる 子どもの育成を目指す学校経営

「まごころ教育」の推進

まごころいっぱい 花いっぱい 夢いっぱい

の学校を目指して

栃木市立国府北小学校 谷津 誠

栃木市の東部に位置する児童数三一五名の規模校です。本校では、永年にわたり「本校教育の理念である『まごころ』を基盤として、未来を志向し、自ら考え、正しく判断し、行動できる児童の育成」を目指して教育活動に取り組んでいます。スローガンに「まごころいっぱい 花いっぱい 夢いっぱい」を掲げ、『まごころ運動』として、「小さな親切運動」、「明るい笑顔のあいさつ運動」、「花を育ておくる運動」の三つの運動を以前より実践してきました。

す。一学期には数枚だった短冊も三学期になると、「しんせつの木」の枝が折れそうなくらい短冊でいっぱいになります。自分の短冊をうれしそうに見ている児童の姿をよく見ます。

二つ目の「明るい笑顔のあいさつ運動」は、児童会が中心となり計画を立て、地区ごとの輪番制で昇降口前で登校する児童に「おはようございます。」の明るい声を投げかけています。また、週末には一週間のあいさつの様子を給食時の放送で発表し、意識づけに繋がっています。

三つ目の「花を育ておくる運動」は、全校児童が栽培したマリーゴールドやパンジーを植えたプランターを校外学習等でお世話になつている地域のお店や公共施設等

に届けたり、運動会で来校された来賓の方々へ鉢植えにしてプレゼントしたりしています。

この三つの『まごころ運動』をとおして、子供たちの「思いやりの心 何事も最後まであきらめず、がんばる心」本校のまごころの育成に努めています。



花を育ておくる運動

豊かなふれあいを通して、 豊かな心を育む

日光市立今市第二小学校 山口 等

本校は、栃木県北西部、日光市にある児童数三一一名の学校です。国道沿いの商業地域と緑豊かな田園の広がる地域です。

本校で実施している、外部人材を活用した教育活動の一端を御紹介いたします。
一、日光市特色ある学校づくり推進事業

本校では、右記事業の一端として「夢や目標の実現に向かって意欲的に学ぶ児童の育成」に取り組んでいます。

具体的には、様々な分野で自分の夢を実現し生き生きと活躍している社会人の

方を学校に招き、講演や実演などから、講師の生きがいややりがい、そこに至るまでの努力の大切さなどを学び、夢や目標をもつことの大切さや意欲を育んでいます。

今まで、民間企業の人材育成係、シエフ、医師、プロスポーツ選手、プロカメラマンなど様々な職業の方から学んできました。

今年度は、ピアニスト、動物園の飼育員、地元材木店や造り酒屋の社長、パイロットなどから学んでいます。

二、ボランティアによる読み聞かせ



読み聞かせスペシャル

卒業生の保護者や現在の保護者などによるボランティアの方々には、月曜日の朝の活動の時間に各学級で読み聞かせをやっていただいています。年に一度の読み聞かせスペシャルとして、大道具・小道具を準備して演技を入れての読み聞かせは子どもたちに大人気です。今年度は「ブレイメンの音楽隊」を実施していただきました。三、地域の方とのふれあいを通して

三年生の総合的な学習の時間「地域のじまんを調べよう」では、学区内のお菓子屋さんやそば屋さん、製材所などにお願ひし、見学や取材を通して、学習を進め、郷土に対する誇りや愛情も育てています。

総合的な学習の時間とのつながりを
もたせた、特色ある学校づくり

ふるさと大好き那須塩原っ子

地域への素晴らしさを次の世代に繋ぐ

那須塩原市立高林小学校 坂和夏男

本校は今年度、高林小、穴沢小、戸田小の三校が統合して新生「高林小学校」としてスタートしました。

那須塩原市最北部の本地区には那須野が原の開拓で有名な那須疏水の取水口があります。本地区の歴史はさらに古く、一六四七年徳川三代将軍家光の時代には熊川上流の大巻川から飲用水を確保する「巻川用水」の開削工事を完成させています。ちなみにこれは、東京の玉川上水よりも七年前のことになります。この巻川用水が今なお本校敷地内を流れています。

校庭東側にある巻川庭園で子どもたちは先人の偉業を肌で感じながら安らぎと潤いのひとときを過ごしています。

こうした歴史ある地域にはそれぞれの地区ごとに代々



「那須地区郷土芸能フェスティバル」で「百村の百堂念仏舞」を発表する6年生(8月30日)

神楽や獅子舞等が伝承されてきましたが、現在は少子高齢化や人口減少による後継者不足でその存続が大変難しい状況にあります。特に「百村の百堂念仏舞」は国指定の無形民俗文化財でもあり、何とか存続できるようにと関係者が知恵を出し合っています。

昨年、本校統合前の穴沢小で総合的な学習の時間に「百村の百堂念仏舞」を学習した際に、ただ歴史や構成の内容等を調べて文書にまとめ

発表するのではなく、実際に自分たちで舞を披露するところまで取り組んだことから、その後いくつかのイベントでも発表することに繋がりました。

今年度は、三・四年生が木綿畑新田の太々神楽や高林の獅子舞について、五・六年生が百村の百堂念仏舞について学習しました。他にも全学年で地域学習に力を入れて取

り組みました。幸い、地域の方々がとても協力的で快く見学を受け入れてくださり丁寧に説明をしてくださいました。また、学校に足を運んで細かな指導もしてくださいました。三校が一緒になった広い学区で、一部の地域に偏ることなく各地域をバランス良く取り上げて学習させていきたいと考えています。

地域との連携を深め

地域の教育力を生かした学校づくり

市貝町立市貝小学校 齋藤澄恵

本校は、周囲を田畑に囲まれ、広い校庭を有するなど、自然豊かな環境の中にあります。児童数は近年減少傾向にあります。児童数は近年減少傾向にあるが、保護者の教育に対する関心は高く、学校の教育活動に大変協力的です。本校はこれまでも、読み聞かせや農園活動等で、地域人材の活用を図ってきました。

一つ目は、推進体制づくりです。地域連携教員が窓口となり、町老人会、町社会福祉協議会、オピニオンリーダーの地域コーディネーターとの代表等からなる情報交流会を、管理職も同席して定期的に実施しています。学校の二

つ目は、教育活動の充実です。本校では、教科や学校行事のほか、夏休みの学習支援や休日の親子奉仕作業等でも、地域と連携した取組を行っています。



「昔からの遊びをしよう」の様子

生活科で実施した「昔からの遊びをしよう」の授業では、児童の祖父母や地域の方など約二十名が協力してくださり、めんこやけん玉、竹とんぼなど、八種目の遊びを楽しみました。児童は、昔の遊びに挑戦し頑張る自分のよさに気付くとともに、地域の人と関わる楽しさを味わっていました。

今後、地域の教育力を学校経営に生かすことにより、豊かな学びを創造し、児童の学習意欲や社会性の向上につなげていきたいと思

話題の広場

満腹、そして満福

上三川町立坂上小学
高橋 稔

本校では、縦割り班でサツマイモを栽培している。

「収穫祭（焼き芋大会）」

に向けてである。以前は、一、二年生のみ、「なかよしの森」で密かに焼き芋を焼いて食べていた。しかし、何とも言えない「いいにおい」は正直で罪でもある。そのにおいを他の学年の子が嗅ぎ付けては指をくわえていた。これでは忍びない、全員で食べようということになった。

「坂小応援団」に声をかけた。朝早くから火をおこし、できた熾火の中に、イモにアルミホイルと新聞紙を巻いて入れた。

今年は地域の方にも声をかけ、地域をあげて実施した。地域連携教員の振る「吹き竹」のもと、当日を迎え、全員で焼きたてのイモを味わった。焼きたてのイモの

味は比べるべくもない。

火を囲むと、心が和む。

参加して下さった方から、

昔、鬼怒川まで出向いて実施したという「芋煮会」にまで話が及んだ。熾火が「伝統や歴史」というイモまで引き出してくれた。

当然、子どもたちはじめ参加者のお腹は満たされた。そして「なかよしの森」に

「笑顔の花」がいつぱい咲き、「笑い声」が響いた。まさに、「嘉会」の「収穫祭」となった。

久野小のシンボル

足利市立久野小学校

寺内 千明

本校は、今年創立百二十周年を迎えました。

校庭には、高さ三十メートルもあるメタセコイアの樹が、遠くからも見えるシンボルのようにそびえ立っています。

しかし、今から三年前、老木のためいつ倒れるか分からない状態となり、伐採されました。残念ながら百二十周年を迎える事はできませんでした。

ここに、樹が元気な頃に書いてくれた児童の詩がありますので、一部紹介させていただきます。

メタセコイア

みんなを見守っているかなしい時 うれしい時

なんでもしつていてくれる

校庭で元気に遊んでいる

子のことも

けんかして泣きべそ

かいている子のことも

何年も何十年の間

空高くから

見ていたんだろ

やさしいメタセコイア

雨の日も風の日も

びくともしないで

しっかりと立っている

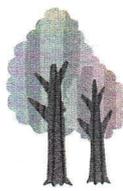
たくましいメタセコイア

わたしもメタセコイアのような人になりたい

現在、樹木の一部はモニュメントとして、各校舎に飾られています。また、残りの木で箸を作る予定です。

今は八十一名の「久野っ子」が本校のシンボルです。

シンボル



事務局だより

今年度の全連小兼関プロ

大会は埼玉大会でした。足

利地区の田中先生、栃木地区の島田先生の発表、そして、司会の中山先生、高岩

先生の的確な進行で、大きな成果を挙げました。次年度、関プロは新潟大会、全

連小は山口大会です。

総務部がまとめた提案事項を、八月に県教委の担当者と重点を絞って協議しました。結果は、十月の理事

研修会で報告し、提案内容は今年からHPに掲載しましたのでご覧ください。

現在、HPは、地区や市町で情報交換ができるようになっていきます。是非、地区や市町の運用担当者を中心にご活用ください。

会員の減少と消費税の増税により予算の執行が非常に厳しい状況です。事業の検討と執行の工夫が必要になつてきている現状です。

年度末にあたり、健康に留意され、御活躍ください。（事務局長 佐々木和美）

編集後記

学生の頃、オーディオ

が趣味で、アルバイト代を注ぎ込んで気に入った機器を買い、好きなレコードを聴いていました。

教師になつてからも、再生される音の定位や奥行きを追求し、機器を入れ替えながら楽しんでいたので、子どもがうまれ、部屋が手狭になつたのを理由に、泣く泣く愛機を手放しました。

あれから二十数年、今は八十年代の機器を集めて懐かしい音色に浸っています。でも何かが違う。そうです、CDではなくレコードで聴かないとあの頃は戻つてこないのです。

御多用の中、本号へ玉稿をお寄せいただきました会員の皆様、心より感謝申し上げます。

（日光市立大室小学校

細井 尚）